昆虫類　＜トンボ目　サナエトンボ科＞　　愛知県：絶滅危惧Ⅱ類　（国：準絶滅危惧）
INSECTA　＜ODONATA　GOMPHIDAE＞　　AICHI：VU　（JAPAN：NT）

オグマサナエ　*Trigomphus ogumai* (Asahina)

【選定理由】

旧市町村単位の絶滅率は63%、現存数は 7.5 であり、絶滅危惧Ⅱ類に相当する。

♂. 長久手町岩作, 2001 年 5 月 11 日, 安藤 尚 撮影

【形　態】

邦産コサナエ属の最大種である。同属他種とは、翅胸前面に太いＬ字形斑のほか、その外側に細い前肩条と小さい黄色点があり、♂では尾部付属器の背面に突起があることで区別できる。

【分布の概要】

【県内の分布】

尾張～三河の平野部とその周辺域の 20 市町村で記録されている。

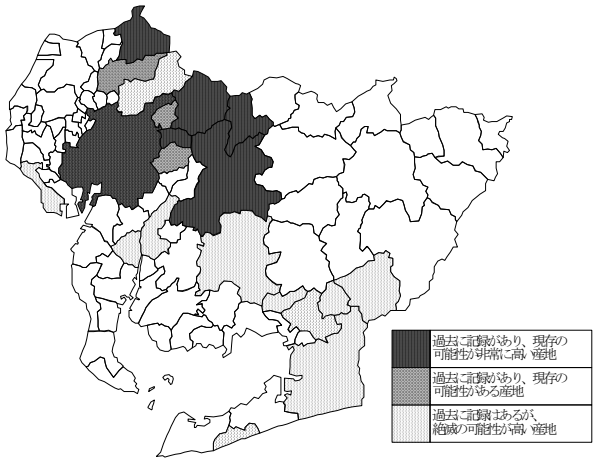
【国内の分布】

本州中部から九州南部にかけて記録されている。

【世界の分布】

日本特産種である。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

成熟成虫は、おもに平地から丘陵地にかけての泥底のある古い溜池や、それにつながる緩流などに見られる。未熟成虫は、生息地を遠く離れることはないようで、発生地周辺で見られることが多い。幼虫は、泥底に浅く潜っている。

本種は 4 月上・中旬から羽化し、5 月を中心に成熟成虫が見られる。幼虫は野外での観察や飼育結果から、成虫になるまでに通常 2 年を要する。

【現在の生息状況／減少の要因】

尾張東部から西三河の丘陵地に現存する。東三河の産地では記録が途絶えている。現存産地はフタスジサナエと似た分布を示す。かつては本種とフタスジサナエが共存する池沼があちこちに存在したが、現在では五指にも満たない。

フタスジサナエと同様、本種幼虫は水質汚濁や改修による底質環境の改変に非常に弱く、さらにオオクチバス（ブラックバス）やブルーギルによる食害の影響も無視できない。本種やフタスジサナエなど平地から丘陵地に生息する止水性のトンボの壊滅は、人間による自然破壊を如実に物語っている。

【保全上の留意点】

1）幼虫の生息域の水質汚染防止と底質環境の保全
2）成虫の休息域となる水域周辺の草地・林地の確保
3）幼虫／成虫を捕食する可能性のある外来魚の移入禁止

【特記事項】

本種は西日本を主たる分布域とし、愛知県は分布のほぼ東限にあたる。

和名はトンボ分類学の先駆者である小熊桿博士に因む。

（吉田雅澄）